

— 広告 —



鍋島 亜由美 (なべしま あゆみ)
金沢工業大学
工学部
情報工学科四年
石川県立金沢錦丘高等学校出身

ヒマワリ色の笑顔と会話 愛されキャラは数学教師に

冬に向かう北陸特有の空の色とは対照的な明るさが、鍋島さんに満ちていた。絶えず笑顔がこぼれ、淀みなくはきはきとした声が返ってくる。真夏の陽にも負けないヒマワリのような笑顔。

朗らかな家庭で育ったに違いない。家族は両親、姉、祖父母の六人。今も全員で囲む夕餼は終始にぎやかで、テレビもスマホも無縁とい

う。「小さな頃から『大きな声で挨拶を』と躰けられました。折り目正しく、何でも話し合えるフランクな家風が、コミュニケーション能力に秀でた彼女の原型になっているわけだ。

気遣いにも感心した。取材の参考にと、進学のみっかけや卒業研究、将来の夢などを、手際よく一枚の紙にまとめて持参してくれたの

だ。勉強面では特別奨学生制度のスカラシップフェローを受け、課外活動や学内インターンシップにも積極的な彼女が、先生や仲間、職員を問わず愛されるのももともとだった。

共働きの両親に代わり、祖父母と過ごす時間が長かった鍋島さんは、高齢者に役立つ医療福祉関連の情報技術を学びたいとK I Tを選んだ。しかし、プログラマーやシステムエンジニアを将来の仕事とするイメージがわかず、可能性を広げるため二次から就職課程を履修した。そこで出会った白木みどり教授が、彼女にとって運命の人となった。

「サービスクラスなど教師はブラッックとの偏見をずっと持って敬遠していました。白木先生から『人づくりという社会形成の最前線を担う教師は、かけがえのない職業よ』の言葉にはっとし、何より、強くて格好いい先生が私のロールモデル

になりました」

四年次の教育実習では、あつとという間に生徒との距離を縮めて慕われ、自信をつけた。夏の教員採用試験本番、本人はドキドキだったと笑うが、一発合格し、来年春から石川県内の学校で数学を教える。

現在、卒業研究で「スマホ利用時間削減のアプリ設計」に取り組む。十六枚のピンゴカード個々に設けたタスクを達成しないとスマホが使えない仕組みで、狙いは「人と人のリアルなコミュニケーション時間を増やす」という、いかにも鍋島さんらしいテーマである。

描く教師像を聞くと、「子どもの背中を押し、何でも気軽に相談してもらえ、自分も一緒に成長する先生」。教壇から降り注がれるピタミンカラーが、教室を隅々まで明るく元気にすることだろう。

金沢工業大学

石川県野々市市原が丘七二一
電話番号(〇七六)二四八二一〇〇

KIT
キャンパス
レポート
文・杉村裕之